Kansai University Repository
このページは自動生成のため、本来の表記と異なる場合があります。

岡山藩池田家の文事 ： 関西大学による林原美術館蔵池田家文書（書籍）の悉皆調査の方法と研究成果

著者	乾 善彦，田中 登，山本 登朗，山本 卓，小倉 宗，平井 章一，橋本 龍，植野 哲也，槌田 祐枝，加藤 洋介，岸本 理恵，村田 右富実
雑誌名	國文學
巻	107
ページ	168-154
発行年	2023-03-01
URL	http://doi.org/10.32286/00028042

岡山藩池田家の文事

―関西大学による林原美術館蔵池田家文書（書籍）の悉皆調査の方法と研究成果―

乾　善彦・田中　登・山本登朗
・山本　卓・小倉　宗・平井章一
・橋本　龍・植野哲也・槌田祐枝
・（故）加藤洋介・岸本理恵・村田右富実

はじめに

関西大学と林原美術館は、2015年に連携協定を締結し、これに基づいてさまざまの共同研究を実施してきた。そのひとつに、林原美術館所蔵の池田家文書のうちの「書籍」の悉皆調査がある。これは、関西大学研究拠点形成支援経費による「地域文化資源をプラットフォームとした地域共同活動の創生拠点形成」（代表　与謝野有紀）の期間中に、その価値が認識されたことによる。同研究成果報告書の中に「本論文に示されたすぐれた古典テキスト解釈の視線は、林原美術館の所有する池田家文書の検討と、いわば「殿様の文事」という未開拓の分野への切込みへと展開した。」とある、当該の論文、坂本美樹「『隣女和歌集』巻一の基礎的考察」（2018.3、『國文学』102：89-100頁）、同「新出資料・林原美術館所蔵『隣女和歌集』（巻一）三本の紹介」（2017.3、『関西大学博物館紀要』23：1-22頁）をきっかけとして、悉皆調査の必要性がみとめられ、翌年、山本登朗を研究代表として2018年度教育研究緊急支援経費「林原美術館所蔵資料の総合的調査－岡山池田藩藩主の文事と岡山の文化を探る－」が認められた。このプロジェクトは一年間であったが、一定の成果をあげたことで、さらに三年間の2019年度教育研究高度化促進費「林原美術館所蔵資料の総合的調査―林原美術館との連携強化のために―」（代表　乾善彦）へと引き継がれることになった。本研究チームでは、さらなる調査の積み重ねに加えて、「地域貢献」が求められた。調査の方は夏休み、冬休み、春休みを利用して行う予定であったが、二年目からは新型コロナウイルスの影響で、調査が滞り、調査冊数は予定を下回ることになったが、それでも、緊急経費を含めて調査カードは3138件に達した。「地

域貢献」としては、研究成果の発信を中心に、地域住民に公開することができた。本稿は、これら調査結果と関連事業をふまえての研究報告論文にあたるものである。

1，研究目的と研究組織

本研究課題は、林原美術館蔵池田家文書（書籍）の悉皆調査を通じて、「殿様の文事」を解明し、研究の高度化のみならず、それを地域に発信し地域貢献に資することを模索しようとするものである。研究組織は、乾を代表として、関西大学側は国語国文学の田中登、山本登朗、山本卓、日本史学の小倉宗、日本美術史の平井章一、林原美術館から学芸課の橋本龍、植野哲也、槌田祐枝で組織し、2020年度からは、田中登教授の特任教授退職と小倉宗教授の学術研究員就任（1年間）に伴い、加藤洋介文学部教授と岸本理恵文学部教授に交代、さらに、2020年秋に加藤教授の逝去に伴い、村田右富実文学部教授を分担者として追加、のべ12名によって3年間の研究を遂行した。また、研究協力者として、中葉芳子、惠阪友紀子、中尾和昇、北井裕美子、福留瑞美、坂本美樹、黒澤暁、阿部彩乃の参加をえた。

2，研究概要

本研究の目的は、悉皆調査の継続と、地域貢献のためのシステムを形成することにある。悉皆調査を継続するにあたっては、とくに具体的な成果の発信を目指すものとして、次の三項目を設定した。

①資料の目録作成とデジタル化

②成果の公開と地域への貢献

③研究成果の発信

①は、これまでの成果を受けたものであるが、今回はとくに、目録の公開を念頭に独自システムを構築することにした。②は本研究経費の目的が「地域貢献」であることにかんがみ、研究成果を地域住民（岡山・吹田）に還元するために、林原美術館における特別展にあわせた公開講座、研究成果報告のためのシンポジウム、関西大学博物館における企画展示の三つの企画を計画した。③では、調査した資料の解題集を企図した。以下にそれぞれの成果を詳述する。

３，研究成果

3-1，①資料の目録作成とデジタル化

池田家蔵書の目録を作成するために､既存の簡易目録（林原美術館蔵白アルバム）と今回作成した調査カード（国文学資料館が文献調査に使用するＳカードを使用）を合わせてデジタル化するために、情報処理関係者と相談しながら、その制度設計をおこない、それに従ってのべ5208レコードの目録データベース作成した。これには、目録作成に詳しい小倉（のち村田)、平井、山本（卓）を中心に、林原美術館の橋本・植野と福留・北井両名の研究協力者があたった。その仕様は、別添資料の通り。調査項目として、

Ⅰ，Ａ基本情報

1, 入力者名

2, 悉皆調査年月日

3, 整理番号（白アルバム番号）

4-1, 白アルバムのＡ情報（一括する外箱の記載群名）

4-2, 白アルバムのＢ情報（Ａ箱内の個別包装の記載名）

4-3, 白アルバムのＣ情報（包装Ｂ内の個別包装の記載名）

5, 白アルバムの個別資料名（巻頭題／法量での仮の分け方等）

6-1, 調査員認定のＡ情報（一括する外箱の記載群名）

6-2, 調査員認定のＢ情報（Ａ箱内の個別包装の記載名）

6-3, 調査員認定のＣ情報（包装Ｂ内の個別包装の記載名）

7-1, 調査員認定の資料名（資料の記載名／仮りの名）

7-2, 調査員認定の筆者名（所有者）

8, 統一名（書名など）

9, 個別名（巻数・初句など）

Ⅱ，補充情報

Ａ情報の書誌と翻刻

Ｂ情報の書誌と翻刻

Ｃ情報の書誌と翻刻

伝来旧蔵場所・遺物

大正期所蔵品目録番号

筆写者（筆跡・画の認定／伝承筆写）

個別題名（表書きの筆＋題＋数＋単位）

Ⅲ，Ｓカード項目

(1) 写刊

(2) 合集状況

(3) 資料内容分類（ジャンル）WID：古典籍 DB 上の著作番号など

(4) 外題

(5) 内題（本文前の巻首題）

(6) 作成者（著作者・編者・差出人・版元など）

(7) 写刊年時①元号＋全角数字

(7) ②西暦

(8) 材質［料紙］

(9) 表紙

(10) 見返し

(11) 書入／付箋／ 絵

(12) 保存状態

(13) 附属品（Ａ～Ｃ情報以外）

(14) 法量・寸法

(15) 紙数　全数（全丁・全頁・貼付の全枚数）・墨付・遊紙前後　など

(16) 形状・装幀［胴回］［風帯］［軸端］［巻緒］［掛緒］など

(17) 員数（単位付き）

(18) 残存状況

Ⅳ，④付加情報

備考１　資料内に記載されている情報

備考２　書誌以外の白アルバム［指定］［伝来］［補修］など

文献掲載履歴［掲載］［参照］

備考３　調査研究員による調査情報

撮影画像

収集優先度

の約 45 項目をたて、入力フォームを作成した。これは、今後、林原美術館蔵池田家関係資料の総合目録の様式ともなるものである。

また、調査した資料のうちとくに重要なものについては、撮影してデジタル化し、

公開に備えた。撮影した資料は、280 点以上、約 6,000 コマにのぼる。また、新型コロナウイスの影響で直接撮影できない状況が続き、業者による委託撮影もおこなっている（30 点、約 800 コマ）。これらは、研究者に公開され、活用できるようになる予定である。

3-2，②成果の公開と地域への貢献

3-2-1，公開講座

林原美術館では、本調査に関連した企画展示が催され、会期中に研究メンバーによる公開講座をおこなった。

〈企画展〉

「愛も出世もあだ討も　絵が紡ぐオムニバスストーリー　飛び込め！お話の世界」（2020.7.4 ～ 9.6）

「博学多才―池田宗政の学びとその生涯―」（2020.9.19 ～ 11.23）

「匠の技・百花繚乱―細部に宿る日本の美―」（2021.2.13 ～ 3.28）

「遊びの文化―和歌・蹴鞠・楽器のたしなみ―」（2022.1.27 ～ 3.31）

〈公開講座〉

「池田綱政の文事―艶書合の世界―」（山本登朗、2020.10.18）

「池田綱政の和歌交流―広島藩・浅野綱晟の場合―」（福留、2021.3.14）

「池田綱政が記した旅日記」（中尾、2021.9.5）

3-2-2，シンポジウム

また、最終年度には、まとめのシンポジウムを開催した。新型コロナのために対面での開催が危ぶまれたが、関係各位のご配慮により、人数を制限しながらも、無事開催できたことについて、関係各位のご配慮に感謝申し上げる。

〈学術シンポジウム〉「綱政公の文事・芸事」（2022.3.12）

挨拶　　谷一　尚（林原美術館館長）

趣旨説明　関大博物館での展観の報告を兼ねて

乾　善彦（関西大学教授）

基調報告１　綱政公の詠歌・芸事修行

福留　瑞美（関西大学東西学術研究所研究員）

基調報告２　伊源物語絵巻について　山本登朗（関西大学名誉教授）

松本　大（関西大学准教授）

コメント１：池田綱政の紀行文　　中尾　和昇（奈良大学准教授）

コメント２：綱政公周辺の女性たち

北井　佑実子（関西大学東西学術研究所研究員）

討論：乾（司会）、山本、福留、中尾、北井

総合司会：岸本　理恵（関西大学教授）

趣旨説明では、後述する関西大学での企画展示の報告を中心に、林原美術館と関西大学と提携の歴史の概略を説明したうえで、今回の教育研究高度化促進費による研究の目的と、本シンポジウムがその報告会の意味をもつことを説明、そして各報告の概要を解説した。

基調報告の一番目「綱政公の詠歌・芸事修行」は、岡山藩三代綱政の和歌と蹴鞠の修養についてのもので、池田家文庫には池田家と京都の公家との関係を示すものが多く含まれる。もともと、池田家は京の公家との関係が緊密であった。一条家とは姻戚関係にあり、また京の文化への造詣も深かった。綱政は、歌道においては飛鳥井家と中院家の二つの歌道家から指導を受けていた。その添削資料の紹介と資料性についての報告である。ちなみに、綱政は蹴鞠の免許も飛鳥井家から授けられており、これについては、林原美術館 2022 年春の企画展「遊びの文化―和歌・蹴鞠・楽器のたしなみ―」（2022.1.27 ～ 3.31）においても、本研究の成果の一端をふまえた展示がなされている。

二番目の「伊源物語絵巻について」で紹介された「伊源物語絵巻」も今回の調査で発見されたもので、伊勢物語と源氏物語との場面が交互に絵画化されたものであり、その資料的価値の重要な点が、伊勢物語研究の山本と源氏物語研究の松本との研究成果として指摘された。

また、コメントの中尾「池田綱政の紀行文」、北井「綱政公周辺の女性たち」は、関西大学における企画展示と関係するものであるが（後述）、やはり今回の調査において確認された綱政の参勤交代による江戸との往還記と、綱政公室千子の仮名文書の読解にかかるもの。前者には、旅中の綱政公の心遣いが随所にあらわれていること、後者は亡母の年忌供養にかかわる記録で優雅な和文体で書かれていることの報告であった。ともに今後の展開が期待される資料である。

このシンポジウムは、コロナ下における会場の都合で、キャパシティーの半分の募集ということもあり、50 名にしぼられたが、参加いただいた方は、岡山周辺の方だけでなく、全国各地から研究者も多くあった。地域への貢献を目指したものであって、その点では地域の方々の好意的な意見をいただいたが、一方で、研究面で

も注目を集めたものであったことを付記しておく。

3-2-3, 研究成果の発信

関西大学博物館における企画展

関西大学の立地する地域への社会貢献を期して二〇二一年度の関西大学博物館冬季企画展として、「池田家藩主三代の手蹟」展を、二〇二一年十二月十日（金）から二〇二二年一月十九日（水）まで開催した。博物館においてもこのようないわゆる「持ち込み企画」はめずらしく、林原美術館、関西大学博物館、両館の多大な協力をえて開催できた。出展したのは、以下の十二資料、三十二点である。この中には林原美術館でも展示してこなかったものも相当数あり、少数ながら見ごたえのある展示となった。展示には主として関西大学側乾、平井が、林原美術館の橋本、植野、槌田が実務を担当し、解説には、乾のほか研究協力者の福留、坂本、中尾、北井があたった。

展示は、Ⅰ．人丸像、Ⅱ．歌書、Ⅲ．旅日記と画業、Ⅳ．池田家の女性たち、の四部構成で、以下が、展示の詳細な内容である。

Ⅰ．人丸像

歌道において人麻呂像は重要である。人麻呂影供では人麻呂像を掲げて歌作するのを通例とした。京の歌道家とつながりの深い池田家には、二条家伝来の人麻呂像が伝わる。また、絵心のある光政、綱政父子も人麻呂像を描いている。定まった図像によりながらもそれぞれに個性ある人麻呂像となっている。野宮定基は中院通茂の次男。綱政は中院通茂の添削指導も受けており、その資料も残されている。

1　二条家秘伝人丸像（書跡 107）　一幅

二条家伝来の人麻呂像が、どのような経緯で池田家に伝わるのか、明らかではないが、おそらく中院家からもたらされたものではないかと考えられる。池田家に伝わる人麻呂像の中でも名品である。

※今回、移動の際の調査で、箱書きに「享保十四己酉年八月十五日謹自写之畢」とあるのが見つかった。二条家秘伝のものとされてきたが、それを継政公によって写されたものである可能性が出てきた。

2-1　綱政公御筆　人丸像（書跡 307-1-1-1）　一枚

画像上部の賛には、中院家に伝わった右京権大夫藤原隆信の画図を写したものであること、全体に花びらがちりばめられていることがのべられる。

2-2　野宮左中将定基朝臣御書翰添（書跡 307-1-1-2）　一枚

野宮左中将定基朝臣は中院通茂男。これによって、綱政は少なくとも二度、この画図を模写していたこと、また、梅花の花びらがちりばめられていることについては中院家に秘伝のあったことが知られる。

3　光政様御繪讃　人丸（書跡 726）　一幅

（賛）人丸／ほのぼのとあかしの浦の朝霧にしまがくれゆく舟をしぞ思／龍たがは紅葉ながる神なびの三室の山にしぐれふるらし／足曳の山どりの尾のしだり尾のながながしよをひとりかもねむ

※人麻呂像には通常、「ほのぼのと」の歌がそえられるが、本作品に三首の歌が書かれている。歌の字配りも注意される。

Ⅱ．歌書

飛鳥井家は歌道と蹴鞠の免許をになう家柄であった。綱政は飛鳥井雅章から蹴鞠の伝授を受けるとともに、歌道においても雅章の添削指導を受けており数種の添削資料が残っている。歌道に専心しただけでなく書にも秀でており、それぞれにここには三代にわたる百人一首の資料を集めてみた。光政はとくに書に秀でており、参考にあげた古筆の臨模は、本物さながらである。また、綱政は飛鳥井家より世尊寺流の散し書きの秘伝も受けている。

※飛鳥井雅章（1611 ～ 1679）が、池田綱政の詠草を添削して別紙（折紙）に書き記したもので、歌題と和歌の初句に合点・訂正本文・評価などが記されている。

4-1　飛鳥井雅章□御筆　哥（書跡 275-4）　九枚（のうち２枚）　二枚

飛鳥井雅章□御筆　哥（書跡 275-4）　九枚（のうち２枚）　二枚

歌題「春立けふの」から「庭の落葉を――」までの計 43 首について記述したもので、添削対象となった池田綱政の詠草（寛文九年頃）は散佚している。しかし、池田綱政自筆自撰家集『詠草独吟』（全 274 首）に共通する和歌が存在しており、その記述から「古今和歌集中仮名題」26 首と「朱星ノ題ノ歌」19 首の計 45 首を添削したものと考えられる。

4-2　飛鳥井雅章□御筆　哥（書跡 275-1）　九枚（のうち４枚）　四枚

歌題「年内立春」から「霞中花」までの計 99 首について記述したもので、池田綱政詠草一三四首（寛文十年頃）を添削したものである。

4-3　飛鳥井雅章□御筆　哥（書跡 275-2）　九枚（のうち２枚）　二枚

歌題「海上霞」から「社頭祝」までの計 62 首について記述したもので、池田綱政詠草八十首（寛文十一年頃）を添削したものである。

5　光政公御筆　隣女和歌集（書跡 501-14）　一冊

飛鳥井雅有の家集。本書は、奥書によって、光政が寛文十二年（1672）十一月に雅有の自筆本を書写したことがわかる。光政は同年六月にも、自筆本を書写している（書跡 505-2）。巻一を有する伝本は少なく、また自筆本を写していることからも貴重である。

6　綱政公御筆　隣女和歌集（書跡 293-21）　一巻

本書には奥書はないが、光政の書写本と大きな異なりはなく、自筆本に基づくか光政書写本に基づくかはにわかに決めがたい。しかし同本を親子二代にわたって書写している点は、飛鳥井家との関係も含めて興味深いものがある。

7　池田光政筆　細字百人一首（書跡 491）　一枚

8　新太郎様御筆手鑑　百人一首（書跡 495）　一帖

7 は細字にびっしり書き込まれた百人一首。拡大鏡が必要なほど、職人的な小字で、光政公の力量がわかる佳品。8 は絹地の色紙型と短冊に個性的な絵と自由な字配りの和歌とが極めて印象的。6 の細密的なものと対照的な逸品である。

9-1　綱政公御筆　世尊寺歌仙色紙型良経定家家隆歌（書跡 548-11）　一冊

前半 16 丁に三十六歌仙の歌が、後半 18 丁に後京極左大臣良経、定家、家隆の歌が、それぞれ様々な散らし書きの方法で書かれており、色紙形に和歌を書くときの書様の手本としたもの。おそらく、中院家に伝わった伝書を書写したものと思われる。

9-2　綱政公御筆　御綴物　百人一首（書籍 548-15）　一冊

10　継政公御筆　百人一首　上・下（書跡 626-1）　二冊

※今回、4 の飛鳥井雅章による添削資料を中心に展示したが、前節でとりあげたシンポジウムの福留の報告に詳しい。また、年をまたぐ展示でもあり、歌書としては百人一首を中心として展示品を選んだ。歴代の百人一首をはじめ光政公第一女奈阿姫君御筆を加えることができた。とくに 8　　の「新太郎様御筆手鑑　百人一首」は今回初の展示であるが、絹地に描かれた歌仙絵は圧巻である。また、7 の「池田光政筆　細字百人一首」は米粒に字の書かれたような逸品で、今回の展示の中では、来場者のもっとも関心を引いたものとなった。さらに、10 の「継政公御筆　百人一首」は版による歌仙絵と作者名のみのものであるが、製作意図が謎のままとなった。

Ⅲ．旅日記と画業

地方の大名家にとって参勤交代は大変な行事であるが、岡山から今日を経由して

江戸に至るまでの旅路はそれぞれに個性があらわれる。江戸と岡山を往復する綱政の記録は、当時の旅程を知る重要な資料であり、また故実の資料ともなる。また、継政はとくに画業に才能を発揮しており、今回展示する、岡山に密着した吉備三社の画賛は幽遠な雰囲気をかもす佳品である。

11　寛文十二丙子旅行　延宝五年　丁巳帰国　旅行記（書跡 284-24）　一冊

寛文十二年（1672）三月十一日に岡山を出発し、江戸へ到着するまでの紀行文と、延宝五年（1677）六月二十三日に江戸を出発し、七月九日に岡山に到着するまでの紀行文を一冊にまとめたもの。なお、寛文十二年の紀行文としては、他に、12 と『旅行日次』（書跡 284-28）の二点が、延宝五年の紀行文としては、『旅行日次』（書跡 284-28）が知られる。

12　綱政公御筆　丁未旅行日記　十二年壬子　参府旅行記（書跡 295-6）　一冊

寛文七年（1667）五月十四日に江戸を出発し、六月二日に岡山に到着するまでの道中の様子を記した紀行文と、同十二年（1672）三月十一日に岡山を出発し、江戸へ到着するまでの紀行文を一冊にまとめたもの。寛文七年紀行文の本文上部には、日付に加えて江戸からの里数が朱書されている。

なお、寛文七年の紀行文としては、他に、『丁未紀行』（書跡 307-4-7）、『綱政朝臣道之記』（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵、C10-1228）、『池田家履歴略記』（寛政十一年（1799）成）の三点が知られる。

13-1　継政公御筆　備中宮内（書跡 735-1）　一幅

（賛）萬代のはじめとけふを祈置て今ゆくすゑを神ぞしる覧

現在の吉備津神社でその門前を備中宮内と称した。

13-2　継政公御筆　吉備津宮（書跡 735-2）　一幅

（賛）神もさぞ行すゑかけて見しめなばたえずや君が世をまもるらん

図像からして、現在の吉備津彦神社かと思われる。

13-3　継政公御筆　瑜伽（書跡 735-3）　一幅

（賛）心をしまことの道に叶つゝいのらば猶も神やまも覧

児島の備中瑜伽には大権現をまつる瑜伽山蓮台寺がある。

※今回の調査では複数の旅行記が確認されたのであるが、同時にそれを写したものもあり、今後の比較検討が必要である。また、継政公による吉備三社は公の画業の力量を十分にうかがうことのできる名品である。

Ⅳ．池田家の女性たち

光政の正室は、本田忠刻と千姫との間に生まれ、徳川秀忠の養女勝姫。継嗣綱政

をはじめ長女奈阿姫らを生んでいる。綱政の正室は丹羽光重の息女千子。また、光政の娘通姫、綱政の養女智子、継政の養女静子がそれぞれ京の一条家に嫁いでいる。光政長女奈阿姫は本田忠平の室。

14-1　知子夫人　御教訓書　檀紙折紙　一通（および包紙一枚）（書跡 299-17）二枚

知子夫人は関白一条忠良の息女で、六代藩主斉政の継嗣斉輝の正室。一条家には光政・綱政・継政の息女・養女が嫁している。この「御覚悟之条目」は武家に嫁いだ先での行動に関することがらが列挙されており、まさに覚悟のほどがうかがわれる。

14-2　御内前様方御筆物　千子様御筆　歌二枚、和文一枚（書跡 299-4-1）　三枚

千子は綱政の正室、陸奥二本松藩初代藩主丹羽光重の息女。綱政自筆資料と共に、千子夫人の和歌や和文を書いた資料が大量に残されている。

15-1　光政公第一女奈阿姫君御筆　百人一首（書跡 701-1）　一冊

15-2　光政公第一女奈阿姫君御筆　百人一首（書跡 701-2）　一冊

奈阿姫は光政の長女で、大和郡山藩初代藩主本多忠平の正室。小さいころに百人一首を手本として和歌を書くことを学んだ跡で、光政の若年期の７と比べて興味深いものがある。

３-3，③研究成果の公表

『林原美術館蔵岡山藩池田家書跡資料　解題（選）』を編集し私家版で刊行した（2022．3.31）。取り上げたのは以下の 24 点で、これまであまり触れられることのなかったものを中心に、調査にあたったものの関心に従って選ばれたものである。執筆は山本登朗、阿部彩乃、北井佑実子、黒澤暁、中尾和昇、福留瑞美、編輯には福留と乾があたった。図版入り、総頁数 47 頁。

［１］知子夫人御遺物堂上方筆跡和歌色紙五枚（書跡 252）

［２］知子夫人御遺物堂上方筆跡五色和歌色紙（書跡 257）

［３］松平弾正大弼様御筆歌六枚附属御書翰共（書跡 267）

［４］飛鳥井雅章卿御筆歌九枚（書跡 275）

［５］綱政公御筆伊勢物語御屏風メクリ歌大小切々四十二枚（書跡 284-1）

［６］綱政公御筆御本類東海道旅行日記（書跡 284-5）

［７］特進源通茂卿添削詠草二冊（書跡 284-19）

［８］綱政公御筆御本類旅行日次一冊（書跡 284-28）

［９］綱政公御筆色紙九枚（書跡 285-1-2）
［10］綱政公御筆御詠草四巻（書跡 293-4）
［11］綱政公御筆御詠草一巻（書跡 293-27）
［12］綱政公御筆御綴物愚吟草甲一冊（書跡 295-3）
［13］綱政公御筆御綴物詠草独吟（書跡 295-4）
［14］綱政公御筆御綴物綱政公丁未旅行日記（書跡 295-6）
［15］継政公御筆戯艸一冊（書跡 303-28-2）
［16］綱政公御筆類別雑丁未紀行一冊（書跡 307-4-7）
［17］光政公御筆和歌会次第（書跡 487-5）
［18］綱政公御筆恋ノ題読様ノ詞（書跡 537-4）
［19］綱政公御筆御詠草三巻（書跡 545－10）
［20］綱政公御筆御綴物竊吟集二冊（書跡 548－4）
［21］綱政公御筆堀河院艶書合（書跡 553）
［22］備陽善行長寿記民濃鑑上中下（書跡 628）
［23］千子様御筆物御道記（書跡 703-3）
［24］千子様御筆物真証院詠歌下書（書跡 703-4）

また、3 年間の期間中に、直接、調査資料にかかわる研究成果（口頭発表を除く）には次のようなものがある。

乾善彦「林原美術館蔵『池田光政公御筆古筆写巻物』所収「万葉集切･綾地切」」（2020.3、萬葉 229、43-51 頁）

山本登朗「「幻の伊勢物語屏風―林原美術館蔵「池田綱政筆伊勢物語屏風メクリ四十二枚」をめぐって―」（国文学 104、2020.3、201-209 頁）

研究協力者

中葉芳子「池田光政筆「古筆臨模聚成」所収の『源氏物語』本文の古筆切」（国文学 104 号、2020.3、221-229 頁）

福留瑞美「備前岡山藩池田綱政の和歌修練 ①：飛鳥井雅章添削の百首歌を中心に」（国文学 105、2021.3、51-67 頁）

福留瑞美「備前岡山藩池田綱政の和歌修練 ②：飛鳥井雅章添削の七十七首を中心に」（国文学 106、2022.3、45-60 頁）

※なお、本研究の前身の緊急支援経費、研究拠点形成支援経費による研究成果の公表には、次のようなものがある（同じく口頭発表をのぞく）。

北井佑実子「池田光政筆「古筆臨模聚成」における『貫之集』古筆切三種」（国

文学 103、2019.3、35-45 頁）

福留瑞美「近世大名による和歌の学びと交流：岡山藩・池田綱政と広島藩・浅野綱晟」（国文学 103、199-220 頁）

國文學 ,103,（2019-03-01）

坂本美樹「新出資料・林原美術館所蔵『隣女和歌集』（巻一）三本の紹介」（関西大学博物館紀要 23、2017.3、1-22 頁）

このように、林原美術館池田家文庫の悉皆調査は新たな研究を生み出すための基礎的な調査であると位置づけることができる。また、これらの成果は、美術館における公開講座や本研究のシンポジウムによって、積極的に地域住民への教養提供の面でも寄与している。また、先に述べた関西大学博物館での展観にもいかされている。

まとめ

以上、3 年間にわたって行ってきた林原美術館蔵池田家資料の調査をふまえて、その成果と今後の課題についてまとめる。

今回の調査は以前からの継続であるが、教育研究高度化促進費によって「地域貢献」を目指したものであるので、調査した資料のデータベースの作成、調査資料のデジタル化、美術館の展観における展示品解説や公開講座での協力、解題集の編集など、とくに調査結果の「発信」に重きを置いたものとなった。

なかでも、関西大学博物館における展観は、関西大学博物館にとっても、林原美術館にとっても、はじめての試みであり、今後の協力協定のありかたの一つとして注目すべきことであったと思われる。移動時の調査によって、それぞれの展示品に対する研究もすすんだことであり、岡山池田藩の文化的な生活を浮き彫りにして、それを関西大学周辺の地域に発信することで、大学博物館としての地域貢献にもあらたな方法を提示できたものと思量する。

この調査は、本研究グループ以前からの、林原美術館と関西大学との連携協定に基づくものであるが、いまだその調査は、膨大な池田家資料のうちの「書籍」の一部分にとどまる。しかしながら､それでも多くの成果が積み重ねられている。今後、さらなる調査の継続とその成果の発信とは、研究面においても地域連携、地域貢献面においても極めて有効かつ重要な課題であり、調査の継続が強く望まれる。

［付記］

本稿は、2019年度教育研究高度化促進費「林原美術館所蔵資料の総合的調査―林原美術館との連携強化のために―」（代表　乾善彦）の結果報告書として調査チーム全員の連名によって執筆されたものであり、取りまとめは乾がおこなった。

研究の遂行にあたり、多大な協力を賜った関西大学教育研究高度化促進費関係各位、関西大学博物館、そしてなにより貴重な資料の閲覧および撮影をお許しいただいた林原美術館関係各位に厚く御礼申し上げます。

（別添資料・入力フォームイメージ）

2020/8/25ver, 2433

関大調査カード［林原美術館池田家書跡資料］ 記入例

調査員	苗字	調査日	2020年0月0日	黄色は選択設定→	複製画像	―／有	公開優先度	―／高５～１低

整理番号：	書跡０００－００－００－００－００ ※全角数字で、3桁－2桁－2桁－2桁　と表記	資料名：	※資料に題の記載がない場合、仮りの名を入れる。 〈記入例〉池田綱政筆　和歌短冊（歌題「初句」署名）　／年月日付宛○○書状　／○○筆　作品名 ※踊り字は文字を入れ、判読不明は〓（げた）　※調査員が未認定の場合には、＊＊＊

①所属：

調査員認定

※資料の所属・一括情報入れ子A＞B＞C

［A情報］
※調査員の未確認は、＊＊＊（全角ｱｽﾀﾘｽｸ）を入力。
※下記の翻刻をもとに、［桐箱］［黒塗箱］等の区分と、記載の旧蔵・筆者・題名・員数の情報のみをコピペ
〈例〉［朱塗箱］（無題）
［袋紙］故御廟　綱政公御筆　歌　一冊

［B情報］
※相当するものがない場合、―（ダッシュ）
※区分：［包紙］［袋紙］［帯紙］、など
※帯など無記載の場合は、［帯紙］（無題）
※調査員認定においては、踊り字・合字は文字を入れ、判読不明の文字は〓（げた）を入力。

［C情報］
※相当するものがない場合、―（ダッシュ）を入力
※左のＡＢ情報に同じ
※改行入力：[Alt]＋[Enter]
※踊り字は文字を、判読不明字は〓（げた）を入力。

翻刻・書誌など

[A]
※調査員の未確認は、＊＊＊（全角ｱｽﾀﾘｽｸ）を入力。　Ａ情報に［桐箱］［包紙］の両方・複数ある場合の改行入力は、[Alt]＋[Enter]
※所蔵Ａ情報に関する翻刻……［桐箱］旧蔵／御筆／題名　員数／巻物号／明治年月改／（貼紙）貴雑丁８号　のように各項目毎に／（ｽﾗｯｼｭ）と表記。
〈記入例〉［塗箱（縦×横×高cm、蒔絵（秋草）、緋平紐金具付、黄木綿布）］（無題）、（貼紙）@@@、（裏書き）@@@
※Ａ情報（箱）に属する附属品があれば記入する。［柳筥（縦×横×高cm）］、［帯紙］（無題）　など

[B]
※B情報に相当するものがない場合は、―（ダッシュ）を入力。　※判読不明の文字は、〓（げた）を入力。
※Ｂ情報に属する［外袋紙］［包紙］［帯紙］など複数ある場合、項目ごとに改行入力 [Alt]＋[Enter]して、記入する。
〈記入例〉［外包紙］@@／（貼紙）@@／（朱印）御
［内包紙］@@／（墨封印）@@／（貼紙）貴雑丁８号

[C]
※Ｃ情報に相当するものがない場合は、―（ダッシュ）を入力。　上記の翻刻Ａ・Ｂ情報に同じ。
※下記の大正期所蔵品目録番号は、「岡山大池田家文庫 C12-267-4-1（無題）」（翻刻：浅利尚民「諸什器取調表」旧岡山藩関係資料・調度品の近代における変遷とその復元」『林原美術館紀要・年報２』2007年）に対応する番号のことで、林原美術館所蔵の資料には貼紙や小札に記載されていることが判明。
目録では、区分（貴雑丁、準雑丁、準巻丁、貴帖丁、貴雑丁、準雑丁、など）と漢数字で番号を記す。（Ｃ情報記入例）［包紙］@@（貼紙）準備 雑丁 一〇二 号

上記の翻刻情報の分解

伝来・旧蔵場所	大正期所蔵番号 全角算用数字で	書写者・筆跡	題名・名称
※記載がない場合は、― ※蔵書印の情報も含む	〈記入例〉準雑丁１２３号 準巻丁４０５号 準雑丁６７０号	※記載ナシは、―（ダッシュ）。包装・折紙・極札など記載の筆者の氏名（不明なら官職名・通称のまま）	※Ａ～Ｃ情報に記載されている名称。　記載ナシには、―（ダッシュ）。 〈記入例〉綱政公御筆歌一枚　／　光政公御筆抜書一巻　など

2020/8/25ver, 2433

②書誌：

(1)別写刊	写／刊／本版	(2)合集状況	―（ダッシュ）合綴／合写／合刻	(3)資料分類	書状、覚書、経文、手鑑、日記、紀行、物語、謡曲、歌書、和歌短冊、和歌色紙、私撰集、定歌、歌合、歌集、歌学書など。歌仙絵・能絵・絵図・画賛、蹴鞠など。抜書（和歌／物語）	(12) 保存	良／並／不良（破・汚・疲・虫、糸切れ、等）、補修あり・撮影不能　など

(4)外題　選択肢：［蓋（色地に桐）／蓋、書／刷、原／後、左／中］
※題ナシは―（ダッシュ）。ある場合は上の［蓋～中］の内から選択して、題名を記入。小書・割書は《》に入れる。振り仮名がある場合は題の後に（）を入れて間に記入し、振り仮名がふられてない文字１字に対し・(中黒)を入力。

(5)内題
※題ナシには―（ダッシュ）。但し、内題を欠く資料で［見返し題］［扉題］［扉裏］［序題］［跋題］［目録題］［尾題］がある場合は、そのうち一つを記入。振り仮名がある場合は、題の後に（）を入れ、振り仮名がふられてない文字１字に対し・(中黒)を入力。

(6)作成者／著作者・編者・差出人・版元など
※不明は―（ダッシュ）。資料の［著者］［原作］［編者］［校訂者］［画］［賛］［詞書］［詠者］［版元］などの区分を入れ記入。

(7)写刊年時：元号＋算用全角＋年月日　西暦：算用全角＋年
※不明は―（ダッシュ）。推定は、「頃、か」などを付与。
※未詳は90年毎に江戸前期・江戸中期・江戸後期で、西暦に一

(8)材質：白ﾌﾛの紙本墨書・絹本着色など
※紙種：鳥の子・薄楮美紙・楮紙・皮など
※［料紙］色替り・内裏り・野紙・雲母引き・具引き・雲

(9)表紙　選択肢：原装／装補、本文共紙
※表紙のない資料は、―（ダッシュ）を入力。
※色・文様：丹表紙・紺地金泥表紙・浅引き・縹色布目・栗皮色表紙・唐草文様・飛出し文様・空押し文様、卍繋ぎ文、など
※紙以外：絹表紙・金襴表紙、など。

(10)見返し　選択肢：原装／装補、本文共紙
※見返しのない資料は、―（ダッシュ）を入力。
※金箔型押し、鳥の子・金泥海賦文様、彩色画など

(11)書入／付箋／絵など
※書入や絵のどちらもナシは―（ダッシュ）。
※［書入］同筆／別筆、墨／朱（漢／片／平）内を選択。［書入者］など
※［絵］全@図、白描画／彩色画・濃彩・淡彩／色刷／丹緑／黒刷 を選択。［描き手］など

(16)形状・装幀
※巻子本(軸)、巻装(通)、折本(帖)、折紙(通)、切紙(通/枚)、断簡(枚)
※冊子本(冊)：綴葉装(列帖装)、粘葉装、袋綴、折紙綴、単葉装、四つ目綴、結び綴 等
※掛軸(縦)、短冊・色紙形(枚)

(17) ※全角数字で、員数　※単位：軸・帖・巻・冊・枚・単位　縦など

(15) ナシは―。表紙以外の紙数　数：全@丁、全@頁、墨付全丁　@丁、前後遊紙@丁、など

(18)残存状況
※ナシは―
※前欠・中欠・後欠など

(14)法量・寸法：算用全角、縦×横
００．０cm×００．０cm
※［１紙幅］０．０cm×０．０cm
※計測対象［表紙/冪線/匡郭］など
※巻物で同じ紙幅なら紙幅cm×枚　など

(13)附属品（ABC情報以外）
※相当ナシ、―（ダッシュ）
※関紙２枚、別紙１枚　など。
※軸端（水晶／象牙／木製・塗）

備考1（資料内の記載情報・翻刻）
※記載なしは、―（ダッシュ）を入力。
※資料内の記載情報として、
［奥書］［識語］［序］［跋］［裏書］［刊記］［極札］、［蔵書印］、［書出］［冒頭］［見返し］、［歌題］［詠者］、［別紙］、［宛所］（年）月日付書状　など

備考2（白ﾌﾛ記載情報および文献記載歴など）
※記載なしは、―（ダッシュ）を入力。
※右以外で、白アルバムの記載情報として、
［指定］国指定重要美術品、［説明］［備考］等
※文献掲載歴：［参考］［論文］［翻刻］［展示会出品歴］など

備考3（調査研究員による調査情報）
※記載なしは、―（ダッシュ）を入力。
※この箇所は調査研究員による調査情報で、関大メンバー以外には非公開予定。公開可能の情報なら、備考１に記入を。
［出典］［内容］［成立年］上限～下限、［関連］［登場人名］、［書式］和歌@行書、１面@行書、など